

急性期医療における作業療法

特集にあたって

急性期というリスク管理と離床、機能訓練等にとらわれがちになるが、いうまでもなく早期から活動と参加、意味のある作業等に焦点を当てた介入を行うことは、作業療法にとってとても重要である。しかし、実際の急性期医療の場面ではそれが容易でないことも多く、急性期医療に身をおく OT は、日々悩みながら臨床で作業療法を実践しているのではないか。

本特集は「急性期医療における作業療法」と題し、各分野の第一線で活躍している 5 名の臨床家に、それぞれの分野での急性期の作業療法を紹介してもらった。リスク管理と機能訓練だけにとどまらない OT らしい展開をわかりやすく示していただいた。

東川氏には脳血管障害患者への早期から活動と参加を視野に入れた介入方法や注意点を、小林氏には代表的な運動器疾患への介入について豊富な臨床データから予後予測も含め、その有用性を述べていただいた。また榎森氏他からは、これまで多くの精神疾患患者を在宅へつなげてきた貴重な経験の紹介がなされ、また佐野氏は内部障害、田中氏は小児医療という難しい分野にもかかわらず、多くの貴重な事例を通して急性期の作業療法のあり方をわかりやすくご教授くださっている。

これからの急性期医療の作業療法の展開に迷っている方たちにとって、大変参考になる内容になっていると思う。ぜひ多くの方々にご一読いただければ幸いである。
(長谷川敬一)

企画担当

長谷川敬一（竹田綜合病院，作業療法士）

澤 俊二（金城大学，作業療法士）

長野敏宏（御荘病院，医師）